

# 学習指導要領等の改訂に向けた検討状況について

# 学習指導要領改訂に係る議論に関するこれまでの経過と今後のスケジュール

平成26年11月	中央教育審議会総会 「初等中等教育における教育課程の基準等の在り方について」諮問
平成26年12月	教育課程部会 ・ <u>教育課程企画特別部会</u> を設置
平成27年1月	教育課程企画特別部会（第1回）  新しい時代にふさわしい学習指導要領の基本的な考え方や、 教科・科目等の在り方、学習・指導方法及び評価方法の在り 方等に関する基本的な方向性について、計14回審議
平成27年8月	教育課程企画特別部会（第14回） 教育課程部会 ・「論点整理」をとりまとめ
平成27年 秋以降	論点整理の方向に沿って教科等別・学校種別に専門的に検討
平成28年	教育課程部会又は教育課程企画特別部会における議論を踏まえて、審議のま とめ
平成28年度内	中央教育審議会として答申

(小学校は32年度から、中学は33年度から全面実施予定。高校は34年度から年次進行により実施予定。)

# 次期学習指導要領改訂に向けた検討体制

平成27年8月26日  
教育課程部会了承

中央教育審議会教育課程部会

教育課程企画特別部会

幼児教育部会

小学校部会

中学校部会

高等学校部会

特別支援教育部会

総則・評価特別部会

国語ワーキンググループ

言語能力の向上に関する特別チーム

外国語ワーキンググループ

社会・地理歴史・公民ワーキンググループ

高等学校の地歴・公民科目  
在り方に関する特別チーム

算数・数学ワーキンググループ

高等学校の数学・理科にわたる  
探究的科目の在り方に関する特別チーム

理科ワーキンググループ

芸術ワーキンググループ

家庭、技術・家庭ワーキンググループ

情報ワーキンググループ

体育・保健体育、健康、安全ワーキンググループ

考える道徳への転換に向けたワーキンググループ

生活・総合的な学習の時間ワーキンググループ

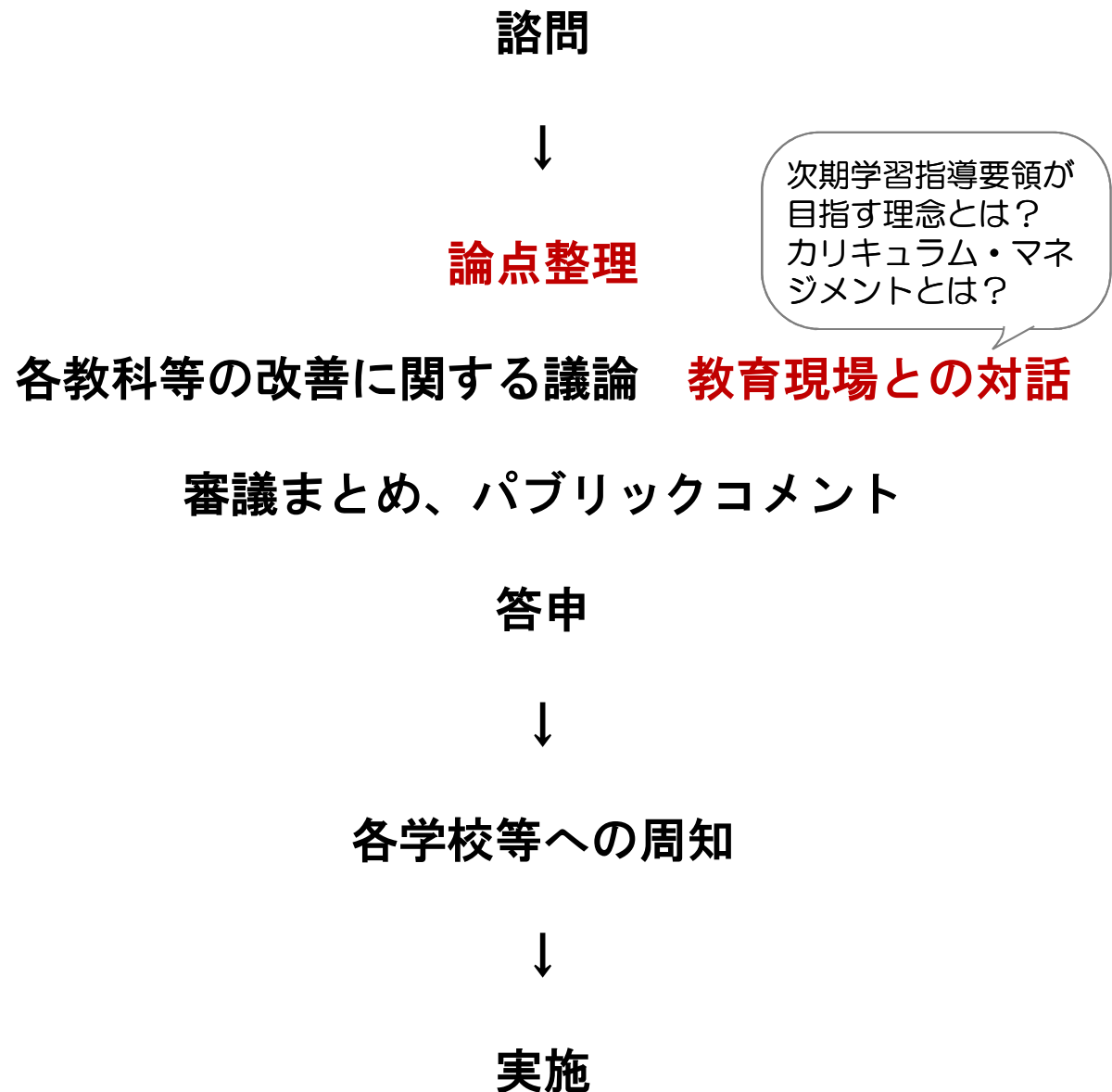
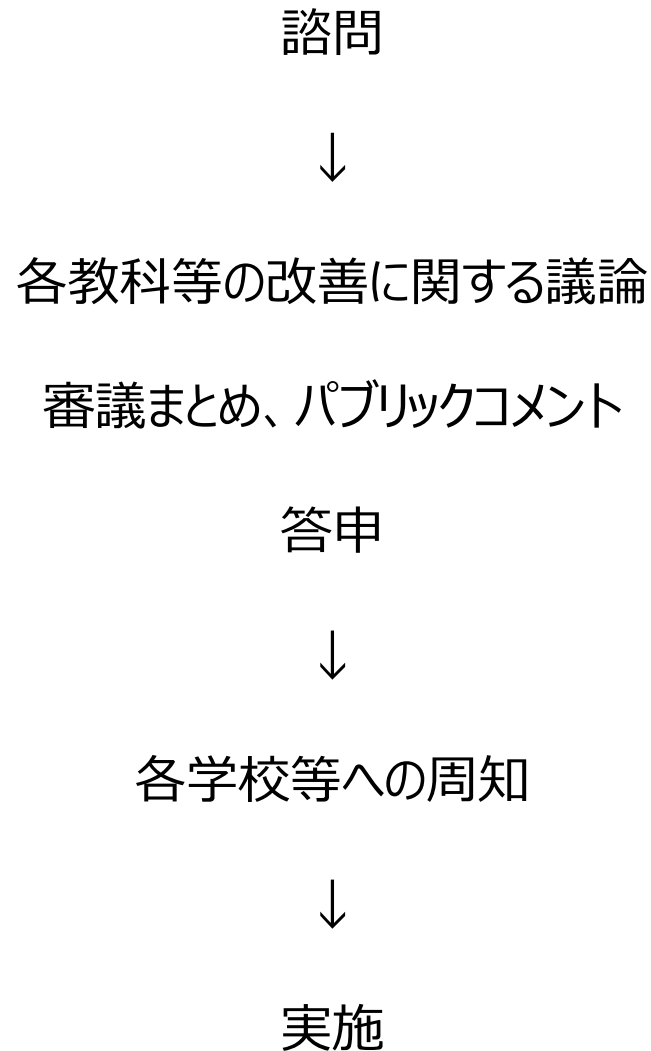
特別活動ワーキンググループ

産業教育ワーキンググループ

# 次期学習指導要領改訂の趣旨の共有等に向けて

## ＜今回の検討スケジュール＞

### ＜従来の検討スケジュール＞



# 学習指導要領の役割

自分自身の可能性を発揮し、自立して充実した人生をいかに実現するか。

新たな価値の創造により、よりよい社会をいかにつくっていくか。  
地域をいかに活性化させ、社会的な活力を向上させるか。

**いずれも人材育成・教育が要。**

**一人一人が社会に参画し、役に立っているというやりがいの実感と、生産性の向上による社会の活力向上等を、いかに実現していくか。**

いかに自己を見つめて学びを深め、他者と協働してよりよい社会を作っていくか。

日本がリードして解決していくことが求められる多様な地球規模の課題に、どう対応していくか。



そのための処方箋を、学校教育の要である教育課程の基準たる「学習指導要領」を通じて、社会的に共有できないか。

## ＜社会に開かれた教育課程＞

- ① 社会や世界の状況を幅広く視野に入れ、よりよい学校教育を通じてよりよい社会づくりを目指すという理念を持ち、教育課程を介してその理念を社会と共有していくこと。
- ② これからの社会を創り出していく子供たちが、社会や世界に向き合い関わり合っていくために求められる資質・能力とは何かを、教育課程において明確化していくこと。
- ③ 教育課程の実施に当たって、地域の人的・物的資源を活用したり、放課後や土曜日等を活用した社会教育との連携を図ったりし、学校教育を学校内に閉じずに、その目指すところを社会と共有・連携しながら実現させること。

21世紀が知的基盤社会であるという認識は、前回改訂と共通。  
グローバル化や情報化等の変化が加速度的となる中で、  
将来の予測がますます難しい時代に。

(現代的な課題)

- 社会的・職業的に自立した人間として、郷土や我が国が育んできた伝統や文化に立脚した広い視野と深い知識を持ち、理想を実現しようとする高い志や意欲を持って、個性や能力を生かしながら、社会の激しい変化の中でも何が重要かを主体的に判断できること。
- 他者に対して自分の考え等を根拠とともに明確に説明しながら、対話や議論を通じて多様な相手の考えを理解したり自分の考え方を広げたりし、多様な人々と協働していくことができること。
- 社会の中で自ら問いを立て、解決方法を探索して計画を実行し、問題を解決に導き新たな価値を創造していくとともに新たな問題の発見・解決につなげていくことができること。



バランスのとれた学力の育成や、言語活動の充実など、**前回改訂の成果をしっかりと受け継いでいく。**

一方で、

- ◆ 社会の加速度的な変化に向き合い人生を切り拓いていくために必要な力を引き出すという観点からは、「生きる力」を育むという理念について、各学校の教育課程や、各教科等の授業への浸透や具体化が十分でない。**教育課程における生きる力の育成の一層の具体化・浸透を図ることが必要。**
- ◆ 各教科等を貫く改善と視点である「言語活動」の成果も踏まえつつ、**教科等を学ぶ本質的な意義を大切にしつつ、教科等間の相互の連携を図ることによって、それぞれ単独では生み出し得ない教育効果をもたらす教育課程を目指す。**



# 「初等中等教育における教育課程の基準等の在り方について」 諮問 (平成26年11月) の概要

## 趣旨

- ◆ 子供たちが成人して社会で活躍する頃には、生産年齢人口の減少、グローバル化の進展や絶え間ない技術革新等により、社会や職業の在り方そのものも大きく変化する可能性。
- ◆ そうした厳しい挑戦の時代を乗り越え、**伝統や文化に立脚し、高い志や意欲を持つ自立した人間として、他者と協働しながら価値の創造に挑み、未来を切り開いていく力が必要。**

- ◆ そのためには、教育の在り方も一層進化させる必要。
- ◆ 特に、学ぶことと社会とのつながりを意識し、「何を教えるか」という知識の質・量の改善に加え、「どのように学ぶか」という、**学びの質や深まりを重視**することが必要。また、学びの成果として「**どのような力が身に付いたか**」という視点が重要。

## 審議事項の柱

### 1. 新しい時代に求められる資質・能力を踏まえた、初等中等教育全体を通じた改訂の基本方針、学習・指導方法の在り方（アクティブ・ラーニング）や評価方法の在り方等

### 2. 新たな教科・科目等の在り方や、既存の教科・科目等の目標・内容の見直し

○グローバル社会において求められる英語教育の在り方（小学校における英語教育の拡充強化、中・高等学校における英語教育の高度化）

○国家及び社会の責任ある形成者を育むための高等学校教育の在り方

- ・主体的に社会参画するための力を育てる新たな科目等
- ・日本史の必修化の扱いなど地理歴史科の見直し
- ・より高度な思考力等を育成する新たな教科・科目
- ・より探究的な学習活動を重視する視点からの「総合的な学習の時間」の改善
- ・社会的要請も踏まえた専門学科のカリキュラムの在り方など、職業教育の充実
- ・義務教育段階での学習内容の確実な定着を図るための教科・科目等

など

### 3. 各学校におけるカリキュラム・マネジメントや、学習・指導方法及び評価方法の改善支援の方策

⇒平成28年度中を目途に答申、2020年（平成32年）から順次実施予定

## 新しい時代に必要となる資質・能力の育成

①「何を知っているか、何ができるか(個別の知識・技能)」

各教科等に関する個別の知識や技能など。身体的技能や芸術表現のための技能等も含む。

②「知っていること・できることをどう使うか(思考力・判断力・表現力等)」

主体的・協働的に問題を発見し解決していくために必要な思考力・判断力・表現力等。

③「どのように社会・世界と関わり、よりよい人生を送るか(人間性や学びに向かう力等)」

①や②の力が働く方向性を決定付ける情意や態度等に関わるもの。以下のようなものが含まれる。

- ・主体的に学習に取り組む態度も含めた学びに向かう力や、自己の感情や行動を統制する能力など、いわゆる「メタ認知」に関するもの。
- ・多様性を尊重する態度と互いの良さを生かして協働する力、持続可能な社会作りに向けた態度、リーダーシップやチームワーク、感性、優しさや思いやりなど、人間性に関するもの。

## 何ができるようになるか

育成すべき資質・能力を育む観点からの  
学習評価の充実

## 何を学ぶか

育成すべき資質・能力を踏まえた  
教科・科目等の新設や目標・内容の見直し

- ◆ グローバル社会において不可欠な英語の能力の強化(小学校高学年での教科化等)や、我が国の伝統的な文化に関する教育の充実
- ◆ 国家・社会の責任ある形成者として、また、自立した人間として生きる力の育成に向けた高等学校教育の改善(地理歴史科における「地理総合」「歴史総合」、公民科における「公共」の設置等、新たな共通必修科目の設置や科目構成の見直しなど抜本的な検討を行う。) 等

## どのように学ぶか

アクティブ・ラーニングの観点からの  
不断の授業改善

- ◆ 習得・活用・探究という学習プロセスのなかで、問題発見・解決を念頭に置いた深い学びの課程が実現できているかどうか
- ◆ 他者との協働や外界との相互作用を通じて、自らの考えを広げ深める、対話的な学びの過程が実現できているかどうか
- ◆ 子供たちが見通しを持って粘り強く取り組み、自らの学習活動を振り返って次につなげる、主体的な学びの過程が実現できているかどうか

主体性・多様性・協働性  
学びに向かう力  
人間性 など

どのように社会・世界と関わり、  
よりよい人生を送るか

どのように学ぶか  
(アクティブ・ラーニングの視点から  
の不断の授業改善)

学習評価の充実  
カリキュラム・マネジメントの充実

「確かな学力」「健やかな体」「豊かな心」を単独でとらえるのではなく、  
統合的にとらえて構造化することを目指す

何を知っているか  
何ができるか

個別の知識・技能

知っていること・できる  
ことをどう使うか

思考力・判断力・表現力等

## ○公職選挙法の改正（6月17日成立、19日公布）

選挙権年齢を18歳以上に引き下げ。

来夏の参議院通常選挙より、高校在学中に18歳を迎えた生徒は選挙権を有することになる。

子供たちにとって、政治や社会がより一層身近に。



初等中等教育修了までに、主体的な社会参画や自立した生活に必要な力を身に付けることが必要となる。

⇒18歳までに身に付けることが求められる力を明確にすると共に、幼・小・中・高それぞれの学校段階においてどこまでの力を身に付けておくべきかを明確化する方向で検討中。

# 学習指導要領等の構造化のイメージ（仮案・調整中）

下記のような構造をイメージしながら、各教科等の意義や教科・科目等の構成、各教科・科目等の内容を見直す必要があるのではないか。その際、教える側の視点だけでなく学習する側の視点にも立ち、学習プロセスの在り方や身に付ける資質・能力等について整理していく必要があるのではないか。

人格の完成を目指し、平和で民主的な国家及び社会の形成者として必要な資質の育成を期す

教科横断的・総合的に育成すべきさまざまな資質・能力

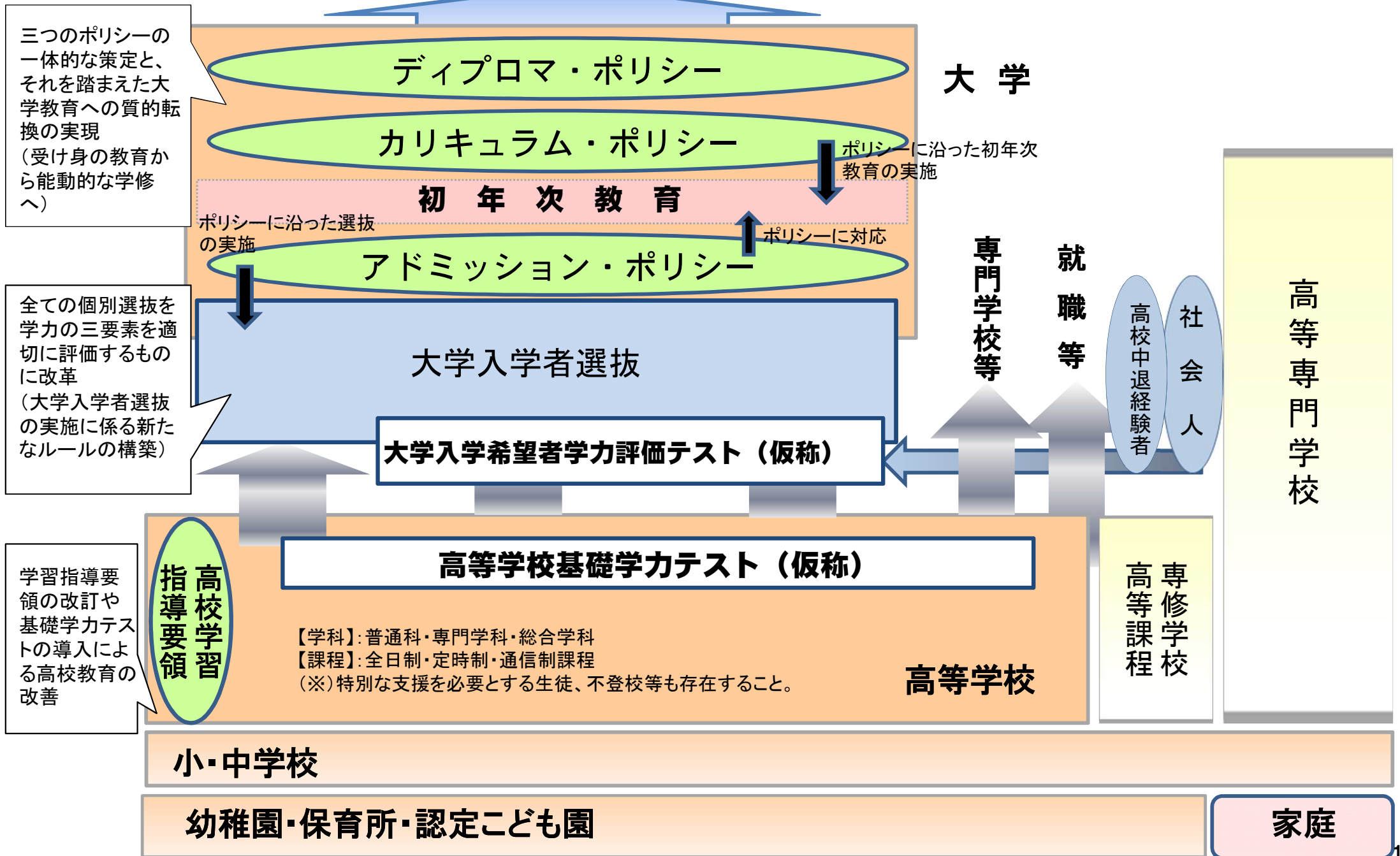
↑  
教科等間の往還  
(カリキュラム・マネジメント)  
↓

	個別の知識や技能 (何を知っているか、 何ができるか)	思考力・判断力・表現力等 教科等の本質に根ざした見方や考え方等 (知っていること・できることをどう使うか)	学びに向かう力、人間性等 情意、態度等に関わるもの (どのように社会・世界と関わり よりよい人生を送るか)
教科学習	各教科に固有の知識や 個別のスキル	各教科の本質に根ざした問題解決の 能力、学び方やものの考え方	各教科を通じて育まれる情意、 態度等
総合的な学習	(各学校で設定)	横断的・総合的な問題解決の能力	実社会における横断的・総合的な 問題解決に取り組む態度
特別活動	集団の運営に関する方法や 基本的な生活習慣等	よりよい集団の生活や 自己の生活習慣等を形成していく能力	自己の役割や責任を果たす態度等
道徳教育	道徳的価値	道徳的判断力	道徳的心情、 道徳的実践意欲と態度

アクティブ・ラーニングの視点に立った  
深い学び、対話的な学び、主体的な学びの実現

# 初等中等教育から大学教育までの一貫した接続イメージ(高大接続改革の全体像)

社会への送り出し (学校教育の入り口から出口まで一貫して社会との関係を重視)



- ① 各教科等の教育内容を相互の関係で捉え、学校の教育目標を踏まえた教科横断的な視点で、その目標の達成に必要な教育の内容を組織的に配列していくこと。
- ② 教育内容の質の向上に向けて、子供たちの姿や地域の現状等に関する調査や各種データ等に基づき、教育課程を編成し、実施し、評価して改善を図る一連のPDCAサイクルを確立すること。
- ③ 教育内容と、教育活動に必要な人的・物的資源等を、地域等の外部の資源も含めて活用しながら効果的に組み合わせること。

- ① 習得・活用・探究という学習プロセスの中で、問題発見・解決を念頭に置きつつ、**深い学びの過程**が実現できているかどうか。
- ② 他者との協働や外界との相互作用を通じて、自らの考えを広げ深める、**対話的な学びの過程**が実現できているかどうか。
- ③ 子供たちが見通しを持って粘り強く取り組み、自らの学習活動を振り返って次につなげる、**主体的な学びの過程**が実現できているかどうか。



# 「アクティブ・ラーニング」と「カリキュラム・マネジメント」を連動させた資質・能力の育成

「アクティブ・ラーニング」と「カリキュラム・マネジメント」は、授業改善や組織運営の改善など、学校の全体的な改善を行うための鍵となる二つの重要な概念

「アクティブ・ラーニング」の  
視点からの学習・指導方法の改善

「カリキュラム・マネジメント」

教育課程を核に、**授業改善及び組織運営の改善に一体的・全体的に迫ることのできる組織文化の形成を図り、「アクティブ・ラーニング」と「カリキュラム・マネジメント」を連動させた学校経営の展開が、それぞれの学校や地域の実態を基に展開されることが求められる。**

各教科等の内容の深い理解  
資質・能力の育成

# 教育課程企画特別部会「論点整理」の趣旨の共有等に向けて

- 新しい学習指導要領が目指すべき姿を示した「論点整理」において、**社会に開かれた教育課程、育成すべき資質・能力の明確化、アクティブ・ラーニングの視点からの学習・指導方法の改善、カリキュラム・マネジメントの充実**など、次期学習指導要領改訂のポイントが示されたところ。
- カリキュラム・マネジメントの充実など、**現時点においても実施可能な事項については、学校現場と対話しつつ取り組んでいただくとともに、学校現場にまで次期学習指導要領改訂の趣旨の共有等を図ることが重要。**

## 共有等に資するツール

- 中央教育審議会関係資料
    - ・ 教育課程企画特別部会「論点整理」
    - ・ 教育課程企画特別部会「論点整理」補足資料
    - ・ 教育課程企画特別部会「論点整理」に係る説明動画  
([http://www.mext.go.jp/b\\_menu/shingi/chukyo/chukyo3/053/sonota/1361117.htm](http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo3/053/sonota/1361117.htm))
  - 指導主事会等、各種会議における関係資料
- ※ 今後、議論に資する資料等を提供予定

次期学習指導要領に向けた理念の共有  
学校教育全体の質の向上